

2023年
2月号 No.6

サルビア訪問リハビリ新聞

発行日：令和4年2月15日 発行者：医療法人社団英世会 介護老人保健施設サルビア
〒191-0024 東京都日野市万願寺1-18-1 TEL042-589-3270 FAX042-589-3271

日野橋



撮影日時 2023年2月9日

リハビリ日誌

*今回もご家族様の声を載せさせて貰いました。またこの方は通所リハビリも利用されており、訪問リハビリの職員と通所リハビリの職員の声も載せています。

娘様の声

二五年前に父が他界し、母の一人暮らしは二十年目になります。昨年、腎不全で一週間入院してから介護保険を利用しています。

訪問リハビリでは週二回運動や散歩を行い、体調の維持を図っています。療法士さんが、いつも明るく励ましながら指導してください。母は前向きな気持ちになれて不安が和らぐのだそうです。

月一回は調理の日です。療法士さんが季節に合わせたメニューを提案してくれて、母は献立を決め材料を揃えます。できるだけ母一人で作業をこなしています。出来立てのお料理を食べる喜びは格別で、母も周りも笑顔になります。

食は元気の源なのだと改めて感じます。

今後もできるだけ訪問リハビリやデイケアサービスを利用して、生き生きと毎日を過ごしてほしいです。そのために、スタッフの皆様のお力をお借りしながら、私は母のサポートを続けていきたいと思えます。

訪問リハビリより

ご本人や娘様の多大なるご協力もあり、これまで野菜炒めをはじめとして麻婆茄子や大学芋などを一緒に作らせていただきました。出来立てを食べることの喜びはもちろん、ご自身で作ったことの達成感や楽しさを感じていただければと思っています。昔のことを思い出しやすい機会にもなる為、これからもご協力をいただき楽しく続けていきたいと考えてます。

通所リハビリより①

訪問リハビリの職員から「〇さんと〇〇つくりましたよ〜！食べますか？」とのお声がかかり、タッパーを受け取るとその中から美味しそうな野菜炒めがでてきました。味付けバッチリ！後日、デイにいらっしやる〇〇さんにお料理の話をする際にも気持ちがいってきます。いざ、〇〇さんへご自宅で作ったお料理のお話をする、食べ物のお話は止まりません。周囲のご利用者さんや職員を、話題に巻き込み盛り上がります。お料理を通して人との関わりが生まれています。ご本人にとって意味のある楽しい時間になっていると感じています。

通所リハビリより②

月に一度の美味しいお裾分けを、いつも楽しみにしています。

デイでは、これからも運動の機会を確保して、また仲良しのご利用者さんとの交流など、楽しい時間を過ごして頂けるようお手伝いしていきたいと思っています。

*麻婆茄子を炒める様子



*美味しいそうなシチュー



編集部員のつづやき

朝のニュースは見るようにしているが、特殊詐欺事件や迷惑行動を動画で発信する等、嫌になる内容が多い。もう少し前向きなニュースにできないものかと日々思う中で、本日のつづやきは、前日も書かせて頂いたが、二歳の息子についてである。

今回は二月の行事として発表会があった。前回は十月の運動会の徒競走を書かせて貰ったが、我が道に行く様子であった。ちなみに先日の節分の行事では、豆をまかずに皆がまいた豆を拾い、最終的に息子の袋は大量の豆が入っていたとの出来事があった。やはり我が道に行く息子の発表会ではどのような可愛い様子を見せてくれるか私も楽しみにしていた。

発表会の内容は、二歳になると自己で行いたい等の自己主張が

増える「イヤイヤ期」がある。その様子を鬼の格好をして劇をするという物である。会場は約八百人程度が収容出来る市民ホール。なかなか緊張しそうな会場である。

実際の様子では、まず初めに手遊びをする場面では見本を行う保育士さんを穏やかな笑顔で眺めている。その後、名前を呼ばれ、綺麗に手を挙げ返事。最後は歌に合わせて踊るのだが、真ん中の一番前に来て、恐らく床に貼ってあるシールの位置をひたすら確認。最後のポーズは、しっかりと決め退場していった。泣いている子供も居る中で、発表会の息子も、ある意味で物おじせずに堂々としたものであった。やはり我が子は大物になりそうだ。